

もくじ

- ・ おやゆびひめ

おやゆびひめ

げんさく
原作： アンデルセン どうわ 童話

イラスト： いなとめ まきこ

へんしゅう
編集： YellowBirdProject

むかし、ある村に、一人の若い女性が住んでいま
 した。一人ぼっちだった彼女は、子どもが欲しいと、
 毎日神様にお祈りをしていました。

その彼女の願いが聞き入れられたのか、ある晩、
 彼女の夢の中に、神様が現れました。

神様は彼女に、一粒の『花の種』を与えました。

『この種をまいて、大切に育てなさい。
 きっと素晴らしいことが起こりますよ』

翌朝、目を覚ました彼女の手には、しっかりと、
 花の種が握られていました。彼女はさっそく、種を庭に
 植えて、毎日水をやり、大事に育てました。



はる たね め で あか
春になると、種から芽が出て、やがて、赤いつぼみ
ひと か のじょ か お ちか
が一つできました。彼女はつぼみに顔を近づけて、
くち
口づけをしました。するとどうでしょう。つぼみが
ひら はじ なか ちい ちい おんな こ
ゆっくりと開き始め、中に、小さな小さな女の子が
はい
入っていたのです。

おんな こ ふつう ひと おやゆび おお
女の子は、普通の人の親指ほどの大きさしか
おやゆびひめ なづ
なかったのですが、『親指姫』と名付けられました。
おやゆびひめ うえ にわ ことり
親指姫は、いつもテーブルの上で、庭にやってきた小鳥
たちと一しょに、きれいな声で歌を歌っていました。

ひ よる おやゆびひめ ちい
ある日の夜。いつものように、親指姫が小さな
ねむ いっぴき まど
ベッドで眠っていると、一匹のヒキガエルが、窓から
いえ なか しの こ ひるま
家の中に忍び込みました。ヒキガエルは、昼間きれい
こえ うた おやゆびひめ め じぶん むすこ
な声で歌っている親指姫に目をつけて、自分の息子の
よめ
お嫁さんにしようと、さらいにきたのです。

ねむ おやゆびひめ
ヒキガエルは、眠っている親指姫をベッドごと
まる じぶん つ
丸のみにして、自分のすみかへ連れて行ってしま
いました。

